

新資格でさく井業の活性化を

一般社団法人 全国さく井協会 第45回定時社員総会開く

(一社)全国さく井協会は6月20日、東京都中央区の鉄鋼会館で第45回定時社員総会を開催し、平成30年度事業報告、決算を承認し、令和元年度事業計画及び予算の報告があった。

総会の冒頭、挨拶した脇雅史会長は「当協会は地下水及び水に関する知見を有し、井戸の設計・施工、維持管理について適確な能力を有する『地下水利用設計管理技術者』という新資格制度を進めており、順調にいけば来年4月スタートする。さく井業という我々の使命を果たしていきたい。一番大事なのは、皆さんの技術力を後世に繋げていくことだ。こうしたことが、協会発展に繋がっていく。私も精一杯努力していきたい」と会員の結束と協力を求めた。



挨拶する脇雅史会長



挨拶する廣瀬昌由河川計画課長

来賓として国土交通省水管理・国土保全局 廣瀬昌由河川計画課長は「新資格制度が創設されると聞いている。技術力を伸ばしていくことは必要だ。今後も地下水全体の視点で皆さんの協力をお願いしたい」と激励された。

令和元年度事業計画では、会員増による組織の充実と来年4月にスタートする新資格制度のスケジュール内容が発表された。近年多発している自然災害時に、設置される避難所に防災井戸の事前設置を進めるために、水井戸のデータベース化のスピードアップを図ること、「さく井・改修工事標準歩掛資料(令和2年度版)」の発行準備に入ることなどが述べられた。

また、11月7日高知市で行う予定の「いい井戸の日2019 in 四国」では、熊本地震を教訓に水の確保、井戸の活用例などをまとめ、一般の人も参加できる講演会、ブース展示の企画等、準備が進められている。

総会終了後、100名を超える参加で懇親会が開かれ、知久明副会長が挨拶をし、田村孝治副会長の乾杯発声で歓談に入った。締めは、新理事に就任した高木繁成近畿支部長が挨拶し、高知市での再会を期してお開きとした。



選出された新役員